

消防水利施設協議審査表（その1）

申請者	住 所				
	氏 名				
開発地	地名・地番		面積	m <sup>2</sup>	
	用途地域区分名				
	既存消防水利施設の種類・基数	防火水槽	基	消火栓 基	
	新たに設置する消防水利施設の種類・基数	防火水槽	基	消火栓 基	
添付書類	位 置 図	有 無	求 積 図	有 無	
	土地利用計画図	有 無	水利施設配置計画図	有 無	
消防水利施設等の帰属					
審 査 項 目			結 果	摘 要	
共 通 事 業 標 識	(1) 防火対象物から1の消防水利に至る距離が別表1に掲げる数以下となっているか				
	(2) 歩行距離が140m以下となっているか				
	(3) 消防水利は、消火栓4に対して防火水槽1以上の割合となっているか				
	(4) 消防車両の進入路が確保されているか				
	(5) 消防活動空地が確保されているか				
	⑥	ア. 原則として、消防水利から5m以内の場所に設置されているか			
		イ. 所在が明確に確保できる位置であるか			
		ウ. 規格・図案は、適当であるか			
		エ. 消火栓・防火水槽の基数に準じているか			
		オ. 標識柱に設置されているか。標識柱を設置することが困難な場合は、壁等に設置されているか			
カ. 路端寄りか					
キ. 既存の道路標識から5m以上離れているか					
ク. 標識板の下端は、路面から1.8m以上か					
ケ. 標識柱は、栗石等により基礎固めをし、コンクリート打設等により風圧に耐えられるように設置されているか					

様式第2号（第9条）

（その2）

審 査 項 目		結 果	摘 要
消 火 栓	(1) 公設水道施設に配管を接続する場合は、事前に水道管理者と協議しているか		
	(2) 水量は、毎分1 m <sup>3</sup> 以上の取水量で、かつ、連続して40分以上使用できるか		
	(3) 消防ポンプ自動車容易に接近し、取水できるものであるか		
	(4) 転倒安全装置付不凍地上式消火栓であるか		
	(5) 呼称65mmの口径を有するものであるか		
	(6) 呼称150mm以上の本管から分岐する呼称75mmの配管に接続されているか又は管網の1辺が180m以下の場合、75mm以上となっているか		
	(7) 私設消火栓の水源は、5基（4基以下の場合、その基数）を開弁したときに（2）に規定する能力を有するか		
	(8) 取付け工事等は、関係町村水道管理者の指導のもとに行い、水道管理者指定（登録）業者となっているか		

様式第2号（第9条）

（その3）

審 査 項 目		結 果	摘 要
防 火	(1) 地下式（半地下式の場合は、地表面の高さは50cm以下）有蓋か		
	(2) 40m <sup>3</sup> 以上の容量があるか		
	(3) 1槽式であるか		
	(4) 水槽底の深さは、地表面から4.5m以内であるか		
	(5) 水密性（防水モルタルを使用する場合は、10mm以上2回塗り）となっているか		
水 槽	(6) 底設ピット	ア. 十分な強度を有し、水槽本体と一体的で水密性が確保されているか	
		イ. 吸管投入孔のおおむね直下に設けてあるか	
		ウ. 1辺の長さが60cm以上又は直径60cm以上で、かつ、深さが50cm以上あるか	
(7) 吸管投入孔	ア. 1又は2の吸管投入孔が設けてあり、水槽本体の強度を損なわない位置及び構造であるか		
	イ. 丸型で直径が60cm以上あるか		
	ウ. 蓋及び蓋を受ける口環を設けるものとし、材質は、必要な強度、耐食性を有しているか		

(その3)

審査項目		結果	摘要
防火水槽	(8) 立ち上がり吸水管	ア. 立ち上がり吸水管は、水槽本体に固定されているか	
		イ. 立ち上がり吸水管支持材料は、鋼製・鋳鉄製又はこれと同等以上の強度及び耐食性を有するものであるか	
		ウ. 水槽本体貫通部は、モルタル充てん等により埋め戻しを行っているか	
		エ. 水槽本体から吸水横引管等の接続部には、緩衝装置をピット内に設けているか	
		オ. 立ち上がり吸水管の吸水口は、呼称65mmの口径を有するもので、呼称75mmの立ち上がり吸水管に取り付けられているか	
		カ. 立ち上がり吸水管の表示は、吸水口付近に「防火水槽」と標示されているか	
		(9) 主要構造材料及び部材等	ア. コンクリートは、材料の均質性・水密性・耐久性を考慮して設計基準強度（4週圧縮強度）は、 $240\text{ kg/cm}^2$ 以上か
イ. 鉄筋は、主鉄筋及び配力鉄筋は、直径13mm以上の異形鉄筋を（ $2,000\text{ kg} \cdot 1,600\text{ kg}$ ）以上であるか			
ウ. 鋼材は、コンクリート被覆又は防錆処理が施されているか			
エ. 頂版・側版・底版及びピットの躯体の厚さは、（ $25\text{ cm} \cdot 20\text{ cm}$ ）以上か			
(10) 上積荷重（総重量20tの自動車荷重（T-20荷重）・ $1\text{ t/m}^2$ ）自重及び土かぶり荷重・土圧・地下水圧・内水圧及び浮力に対する強度を有し、耐久性があるか			
(11) 栗石等により必要な基礎固めをしているか			
(12) 容量の算定は、底設ピット、立ち上がり吸水管内の容量及び吸管投入孔の容量を除いているか			
(13) 梯子（梯子に代わるものでも可）が設置されているか			